

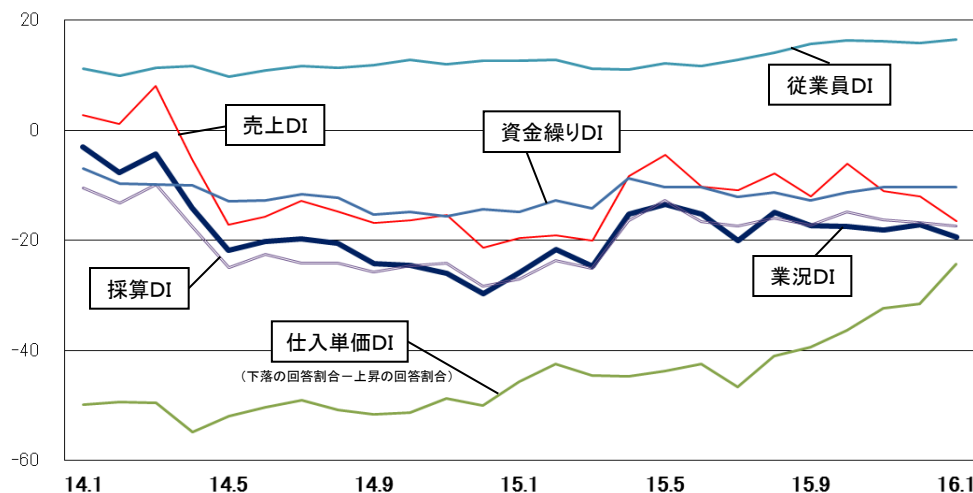


業況DIは、足踏み続く。先行きも不透明感から慎重な見方崩れず

ポイント

- ▶ 1月の全産業合計の業況DIは、▲19.4と、前月から▲2.2ポイントの悪化。人手不足や人件費の上昇が足かせとなる中、中国経済の減速、個人消費の鈍さなどに伴う売上減少に加え、年明け以降の株価・為替の不安定な推移が中小企業のマインドを下押ししている。ただし、「好転」から「不変」への変化も押し下げ要因となったほか、観光需要や自動車関連などは堅調に推移しており、実体は、昨年秋頃からの足踏み状況が続いている。
- ▶ 先行きについては、先行き見通しDIが▲18.7(今月比+0.7ポイント)と、ほぼ横ばいを見込む。春節などに伴う観光需要や住宅投資による下支えのほか、原油安を背景とする原材料、燃料などの価格下落に伴う収益改善を期待する声が聞かれる。他方、新興国経済の減速や株価・為替の不安定な推移、人手不足の影響拡大などにより景気の不透明感が増す中、中小企業においては、先行きに対する慎重な見方が続く。

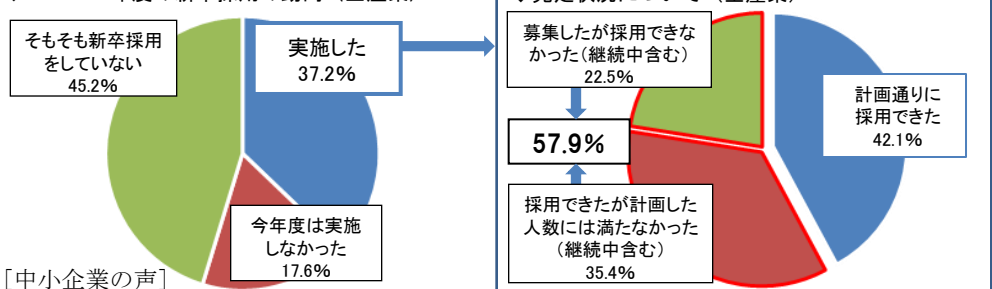
LOBO全産業合計の各DIの推移(2014年1月以降)



2015年度の新卒採用の動向

- ▶ 2015年度の新卒採用について、「実施した」企業(全産業)は37.2%、「今年度は実施しなかった」は17.6%
- ▶ 「実施した」企業の充足状況については、「計画通りに採用できた」が42.1%、一方「採用できたが計画した人数には満たなかった(継続中含む)」「募集したが採用できなかった(継続中含む)」企業は合わせて57.9%に達した

◆2015年度の新卒採用の動向(全産業)



[中小企業の声]

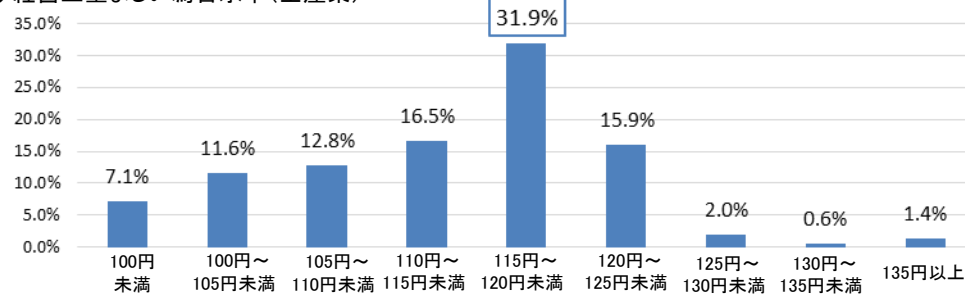
- ▶ 1名でも新卒を採用したいが確保できていない。諦めずに粘り強く採用活動を続けていく(八王子 ソフトウェア業)
- ▶ 採用開始後、早めに内定を出したが、その後大企業の内定を得た学生が、内定を辞退したため、計画人数を確保するのに苦労した(別府 百貨店)

経営上望ましい為替水準

※調査期間(1月15日~21日)の為替水準:1ドル=115円~118円台で推移

- ▶ 自社の経営上望ましい為替水準(全産業)は、「115円~120円未満」が31.9%と最も多く、次いで「110円~115円未満」が16.5%と続く

◆経営上望ましい為替水準(全産業)



[中小企業の声]

- ▶ 為替が円安方向で安定推移しており、東南アジアからの安価な輸入品が抑えられ、価格競争に巻き込まれずに済んでいる(紀州有田 化学品製造業)
- ▶ 乱高下する為替相場は望まないが、もう少し円高が進めば、海外の良質な原木を安く仕入れられ、付加価値の高い商品として提案できる(徳島 木材加工業)